

科目名	美術と文化				担当	岡村 綾華		
形態	講義	単位数	2	開講時期	1年前期	実務経験	小学生の美術指導	
必修	—				ナンバリング	KB105	DPとの関連	(幼) 1 (総) 1
授業概要	文化は人間がつくり出すものであるならば、私たちが積極的に豊かな生活を望むこともまた文化のひとつである。この授業では、豊かな社会生活をつくり出すことにおいて、美術が果たしている役割をアートやデザインの事例をとおして理解する。また、美術と文化の結びつきを自覚的に学ぶ。							
到達目標 学習成果	1. 私たちの生活や文化から幅広く美術を捉え直すことができる 2. 自らの課題を設定し表現を通してその解を探索し創造することを体験する							
授業計画	回	内容						
	1	オリエンテーション：授業ガイダンス/内容・評価等について						
	2	美術に出会う①：美術とは何か/それぞれの「美術」についての思いや考えを共有する						
	3	美術に出会う②：身の回りの「美しいもの」を観察し報告する						
	4	美術に出会う③：観察したものを表現してみる						
	5	プレゼンテーション：「美術に出会う③」を共有し、それぞれの美しさについて話し合う						
	6	事例をみる①：豊かな社会生活をつくり出しているアートとデザイン事例をみる						
	7	ディスカッション：事例から美術の（文化的な）役割について考える。						
	8	事例をみる②：講師（岡村）の創作（自己の表現）における思考と行為の中身の紹介。						
	9	事例をみる③：講師（岡村）のデザイン（他者がいる表現）における思考と行為の中身の紹介。						
	10	ディスカッション：事例から創作とデザインとは何かについて考える。						
	11	自覚的に学ぶ①：小さな表現（プレゼントをつくる）を体験する。						
	12	自覚的な学び②：表現物（プレゼント）を交換してみる。そこから表現の意味を考える。						
	13	自覚的な学び③：表現を改良する。デザイン						
	14	ディスカッション：表現することとそれを「贈り・受けとること（贈与）」の体験を文化としてとらえてみる。						
15	授業全体のふり返り：美術と文化の結びつきについてディスカッションする							
評価基準	1. 私たちの生活や文化から幅広く美術を捉え直すことができたか 2. 自ら課題を設定し、表現を通してその解を探索し創造することを体験できたか							
評価方法	各表現課題 50% ディスカッションへの参加 30% 授業への貢献 20%							
フィードバック 方法	表現の結果と過程、それらのプレゼンテーション（提示と説明）において都度講評する。ディスカッションの内容と進行についてコメントする。							
アクティブ ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション							
材料費	500円程度（材料購入が必要な場合）							
教科書	特になし							
参考書	適宜、資料を配布する							
履修条件	特になし							
授業外学習	日頃から豊かな社会生活をつくり出しているものやことに気を配るように心がける							
オフィスアワー	質問や課題設定の相談等は、授業の前後に講師室にて受け付ける							